

# 第 13 回 菊川水系流域委員会

## 議事要旨

日時：令和 5 年 10 月 13 日（金）13:00～14:30

場所：浜松河川国道事務所（WEB 会議併用）

1. 開会
2. 挨拶（所長・委員長）
3. 議事

### (1) 菊川水系河川整備計画の進捗状況と点検

- ・今年度魚類調査を実施したとのことだが、今回の委員会資料には整理されていないか。  
⇒（事務局）速報値のため、委員会資料には反映できていない。後ほど、個別に調査結果の情報を共有させていただく。
- ・p.4 令和元年以降浸水被害が発生しているようであるが、農地への浸水等、それほど大きいわけではないのか。  
⇒（事務局）令和 2 年～令和 4 年は内水被害で、流域内で限られた場所での被害となっている。地形特性から黒沢川周辺での内水被害が多い状況である。
- ・p.12 令和 4 年の国安地点で BOD の最大値が大きいという説明だったが、他地点でも令和 3 年～4 年は最大値が大きくなっている。年変動として水質の悪い時期があるという説明であったが、近年このような傾向が出始めている印象である。この点について補足説明があれば教えてほしい。  
⇒（事務局）濁水傾向にあった年は BOD の最大値が一時的に大きくなる時期があることを確認しているが、例外となる年もあり傾向はまだ把握できていない。現在は冬季の流量減少が要因で一時的に BOD が大きくなると推定しているが、引き続き市とも連携し、継続的にモニタリングしていく。
- ・p.10 維持管理計画の見直し検討を進めているとのことだが、当委員会での議論はあるのか。  
⇒（事務局）河川管理課で維持管理計画の更新作業を進めており、現時点では学識者に個別に意見聴取する予定はない。  
⇒施設の老朽化が進む中、従前と異なる管理方法を考えているのか。  
⇒（事務局）従来の事後保全の対応から、予防保全の対応に切り替えて取り組んでいる。
- ・河川整備計画の進捗として高潮対策は進んでいるのか。  
⇒（事務局）主な事業は河道掘削である。高潮対策は、現在高潮堤防施工中で、樋管の改築や天端舗装が完成した時点で進捗率が 100%になる予定である。
- ・オオキンケイギクのような外来種植物に対する対策は行っているのか。  
⇒（事務局）外来種の調査は定期的実施しており、結果に応じて適切に駆除を行っている。

## 4. その他

### (1) 第12回菊川水系流域委員会での指摘事項とその対応

- ・意見なし。

### (2) 河口フラッシュ調査

- ・p.5 過去の調査では河口砂州形状や高さは大きな変化はなかったが、本委員会の資料では、前浜で砂州高が上がっている。この結果が一時的な現象であるか、確認しているか。  
⇒（事務局）令和3年12月から令和4年10月にかけては前浜で0.25m～0.50m程度堆積が進んでいるが、波浪や季節風など一時的な影響だと考えている。将来的には気候変動の影響が考えられるが、現在は河口砂州への影響は出ていないと考えている。
- ・堆積した土砂は海由来か河川由来か分かりそうか。  
⇒（事務局）今後調査により確認していきたい。過去の導流堤の設計報告書によると、設計当時は海由来が多かったとされている。
- ・令和5年調査でワラスボ等の魚類の重要種が確認されたとのことだが、泥干潟も存在しているのか。  
⇒（事務局）重要種の生息位置等は整理中のため、分かり次第情報提供する。
- ・近年、河口部には昔見られたアシ原があまり見られないようである。昔はアシ原が干潟に繁茂していた記憶があるが、現在の干潟は出水時にフラッシュしやすいのか、実態を確認したい。  
⇒（事務局）一定以上の流量で河口砂州のフラッシュが発生すると考えている。なお、アシ原は河口から2km付近で確認されている。
- ・魚類調査ではトビハゼが確認されたということで、安定した入江の環境であることが分かる。河口砂州フラッシュのメカニズムが分かれば、コントロールしていくことも考えられる。  
⇒（事務局）引き続き河川整備計画でも環境保全や創出を進めていく。環境調査についても、委員の皆様にご意見を伺いながら進めていきたい。
- ・p.9 ピーク流量の関係をみると、計画高水流量の5割程度である、750m<sup>3</sup>/sを超えると流量増加に従いフラッシュによる開口幅が大きくなっている状況がみてとれる。また、御前崎の潮位が高くても、流量が1000 m<sup>3</sup>/sを超過すればフラッシュされるような傾向がみてとれる。  
⇒（事務局）河口砂州のフラッシュを考慮すると、計画上の掘削量を減らすことができる可能性がある。全国的にもそのような計画を策定している事例もあるため、次期河川整備計画ではそのような観点も入れていきたい。

### (3) 流域治水プロジェクトについて

- ・意見なし。

## 5. 閉会

## 6. 出席者リスト

### ■委員：5名

氏名	専門分野	所属・役職	備考
秋山 信彦	関係漁業	東海大学 海洋学部 教授	
渋澤 博幸	経済	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授	
末次 忠司	水工水理学	(元)山梨大学大学院 総合研究部 工学域土木環境工学系 教授	委員長
道林 克禎	水質	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授	WEB
山田 辰美	環境	常葉大学 名誉教授	副委員長

※絹村委員、溝口委員（欠席）

### ■事務局（国土交通省浜松河川国道事務所）

氏名	所属・役職	備考
名久井 孝史	国土交通省 浜松河川国道事務所 事務所長	
伊地知 誠	国土交通省 浜松河川国道事務所 副所長	
田中 祐太	国土交通省 浜松河川国道事務所 流域治水課長	